高山村

黒部遺跡（KUROBE）　二ツ石前遺跡（FUTATSUISHIMAE）

県営中山間総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
信州高山地区

２０１７．３

長野県長野地方事務所
長野県埋蔵文化財センター

高山村

黒部遺跡（KUROBE）　二ツ石前遺跡（FUTATSUISHIMAE）

県営中山間総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
信州高山地区

２０１７．３

長野県長野地方事務所
長野県埋蔵文化財センター

はじめに

高山村は長野県の北東部にあり、善光寺平を望む日当たりのよい扇状地ではリンゴやブドウなどの果樹がつくられ特産品となっています。村域の大半は森林、原野で占められますが、四季折々に美しい景観をみせる豊かな自然は、その多くが上信越高原国立公園に指定されています。

今回、地域資源を活かした魅力ある産業の創出を図るために県営中山間総合整備事業が推進され、これに伴って黒部遺跡、二ツ石前遺跡の発掘調査が行われました。本書はその発掘調査の成果を報告するものです。

黒部遺跡は過去の調査で縄文時代、古代の遺構・遺物が確認されていることから、同時期の集落跡が発見される可能性がありました。調査の結果、調査地点は遺跡の中心部から離れた場所で、土器や石器の散布地であることがわかりました。一方、二ツ石前遺跡は過去の調査例がなく、初めての発掘調査となりました。調査の結果、遺構をみつけることはできませんでしたが、縄文時代の遺物の散布地であることは確認できました。

両遺跡は扇状地上に立地する遺跡です。とくに調査の対象となった地点は、日当たりのよい緩斜面でしたが、地下水位が低く水の得にくい環境にあり、集落を営む適地ではなかったと考えられます。

調査内容の詳細につきましては、本書を御覧いただければと思いますが、今回の調査によって得られた資料と情報が、今後、多方面で十分に活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘から整理等作業、本報告書の刊行にいたるまで、深い御理解と御協力をいただきました長野県長野地方事務所、長野県教育委員会、高山村、高山村教育委員会、地権者や区長をはじめとする関係各位に、心から敬意と感謝の意を表する次第です。

例言

1　本書は、長野県上高井郡高山村に所在する黒部遺跡、二ツ石前遺跡の発掘調査報告書である。
2　発掘調査は、県営中山間総合整備事業に伴う記録保存調査として、一般財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターが実施した。委託契約等については第1章を参照願いたい。
3　遺跡の概要は、長野県埋蔵文化財センター刊行の『長野県埋蔵文化財センター年報』31、33で紹介しているが、本書の記述をもって最終報告とする。内容に相違がある場合は、本書をもって訂正する。
4　本書で使用した地図は、国土地理院発行の地形図（1：25,000「中野西部」「中野東部」「須坂」「御飯岳」、1：50,000「中野」「須坂」）、高山村基本図（1：5,000）をもとに作成した。
5　本書で扱っている国家座標は、国土地理院の定める平面直角座標系第Ⅷ系の原点を基準点としている。座標値は、世界測地系を用いている。
6　発掘調査にあたっては、以下の機関、諸氏に業務委託した（敬称略）。
　測量：（株）写真測図研究所
　石材鑑定：信州大学教授　原山　智
7　発掘調査および報告書刊行にあたり、下記の方々、機関に御指導、御協力をいただいた。お名前を記して感謝の意を表する（敬称略）。
　高山村、高山村教育委員会、長野県文化財保護審議会史跡・考古資料部会（小野　昭、笹澤　浩、会田　進）
8　発掘・整理等作業の担当者、発掘・整理作業員は第1章第1節第2表に記載した。
9　本書は、調査研究員黒岩　隆、福井優希が執筆し、調査部長平林　彰、調査第1課長岡村秀雄が校閲した。
10　引用・参考文献は、第6章の末尾に記載した。
11　調査資料（実測図面、写真等の記録類）および遺物は、報告書刊行後、高山村教育委員会へ移管予定である。

凡例

1　基本層序の色調の記録は、『新版　標準土色帖　35版』（2013.3）による。
2　本文および図中のトレンチ名称は、「T」を使用した略称とする（黒部：1T、2T…22T、二ツ石前：T01、T02…T12）

目次

はじめに
例言
凡例
目次
図版目次
表目次
写真図版目次

第１章　調査に至る経緯
　第１節　事業の概要と保護協議……1
　　1　県営中山間総合整備事業の計画……1
　　2　埋蔵文化財の保護協議と調査……1
　　3　文化財保護法の手続き……1
　第２節　発掘作業と整理等作業の体制……1
第２章　調査の経過
　第１節　発掘作業の経過……2
　　1　発掘作業の方法……2
　　2　日誌抄……4
　第２節　整理等作業の経過……4
　　1　整理等作業の方法……4
　　2　日誌抄……4
第３章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境……5
　第２節　歴史的環境……5
第４章　黒部遺跡
　第１節　調査の概要……8
　　1　調査の概要……8
　　2　基本層序……11
　第２節　遺　　物……11
第５章　二ツ石前遺跡……12
　第１節　調査の概要……12
　　1　調査の概要……12
　　2　基本層序……14
　第２節　遺　　物……14
第６章　総　　括……15
写真図版
報告書抄録

図版目次

第１図　グリッドの呼称……2
第２図　基準線設定図……3
第３図　遺跡位置図……6
第４図　遺跡分布図……7
第５図　黒部遺跡　遺跡範囲・調査範囲・地形図…9
第６図　黒部遺跡　トレンチ配置図・土層柱状図…10
第７図　黒部遺跡　地形概念図……11
第８図　黒部遺跡　遺物実測図……11
第９図　二ツ石前遺跡　遺跡範囲・調査範囲・地形図……12
第10図　二ツ石前遺跡　トレンチ配置図・土層柱状図……13
第11図　二ツ石前遺跡　遺物実測図……14

表目次

第１表　文化財保護法に係る諸届一覧……1
第２表　調査体制……1
第３表　遺跡地名表……7

写真図版目次

PL １　黒部遺跡　黒部遺跡遠景
PL ２　黒部遺跡　トレンチ完掘全景、北西農道、南側農道、2T、4T、6T、8T、15T、Ⅳ層上面出土土器、Ⅳ層上面出土石鏃
PL ３　二ツ石前遺跡　二ツ石前遺跡遠景、T12 北側礫集中
PL ４　二ツ石前遺跡　調査前遺跡全景、T01、T03、T05、T07、T07 断面中央最深部、T10、T12、T03 出土石器

第１章　調査に至る経緯

第１節　事業の概要と保護協議

１　県営中山間総合整備事業の計画

今回の調査は、長野県長野地方事務所農地整備課地域整備係（以下「地方事務所農整課」という。）が事業主体となる県営中山間総合整備事業（信州高山地区裏原工区、緑ヶ丘・二ツ石工区）に伴うものである。

２　埋蔵文化財の保護協議と調査

平成 25 年度の長野県公共事業照会による高山村内の事業について、平成 26 年 1 月 16 日高山村公民館で事業主体の地方事務所農整課、および関連機関の長野県土地改良事業団体連合会、高山村教育委員会（以下「村教委」という。）、長野県教育委員会文化財・生涯学習課（以下「県教委」という。）、長野県埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」という。）による 5 者協議がもたれた。その結果、平成 26 年度実施事業の裏原工区内の黒部遺跡について農道拡幅部・新設部の面的調査と、ほ場整備で切り土予定範囲内の確認調査を埋文センターが実施し、調査結果にもとづき事業の設計変更などを再協議することとなった。これにより埋文センターでは平成 26 年度事業として平成 26 年 4 月から 5 月にかけて調査を実施した。緑ヶ丘・二ツ石工区内の二ツ石前遺跡についても、平成 28 年 1 月 20 日高山村公民館で地方事務所農整課、村教委、県教委、埋文センターによる 4 者協議がもたれ、埋文センターが発掘調査を受託することとなった。市道両側の拡幅部分などで確認調査を実施し、遺跡の状況を把握することから開始した調査は、平成 28 年 4 月から 6 月にかけて実施した。

３　文化財保護法の手続き

文化財保護法に基づく届け出等の手続きは、以下のとおりである。

第１表　文化財保護法に係る諸届一覧

遺跡名 （調査年度）	土木工事通知(法 94 条) 文書番号(日付)	県教委勧告(法 94 条) 文書番号(日付)	発掘届(法 92 条) 文書番号(日付)	県教委指示(法 92 条) 文書番号(日付)	埋蔵物発見届 文書番号(日付)	文化財認定 文書番号(日付)
黒部遺跡 (H26)	25長地農整第417号 (H26. 3. 11)	25教文第8-383号 (H26. 3. 27)	25長埋第1-13号 (H26. 3. 10)	25教文第6-17号 (H26. 3. 27)	26長埋第15-2号 (H26. 5. 30)	26教文第20-29号 (H26. 6. 13)
二ツ石前遺跡 (H28)	27長地農整第450号 (H28. 3. 22)	27教文第8-388号 (H28. 3. 28)	27長埋第1-9号 (H28. 3. 9)	27教文第6-14号 (H28. 3. 22)	28長埋第10-1号 (H28. 6. 7)	28教文第20-29号 (H28. 7. 4)

第２節　発掘作業と整理等作業の体制

発掘作業・整理等作業の体制は、以下のとおりである。

第２表　調査体制

年度	所　長	副所長兼管理部長	管理課長	管理課長補佐	調査部長	担当課長	担当調査研究員
平成26年	会津敏男	多城　哲	村山清治	山本希一	大竹憲昭	岡村秀雄	廣瀬昭弘　大澤泰智
平成28年	会津敏男	竹内　誠	山本希一	望月英夫	平林　彰	岡村秀雄	黒岩　陸　福井優希
平成26年度　発掘作業員：池田道保　大塚加津美　岡村文雄　返町さおり　徳竹知従　土屋美晴　橋内賢裕　望月悦夫							
平成28年度　発掘作業員：大内秀子　大澤紅美　小根山直子　菅　雅孝　小池美香　清水秋子　中村　誠　若林　敏							
平成28年度　整理作業員：窪田　順　小池美香　持井　聖							

第２章　調査の経過

第１節　発掘作業の経過

１　発掘作業の方法

調査は県教委の「記録保存を目的とする発掘調査の標準および積算基準」と、埋文センター作成の「遺跡調査の方針と手順」に則して実施している。

（１）遺跡名称と遺跡記号

遺跡名称と遺跡記号は、黒部遺跡（KUROBE）:「ＡＫＥ」、二ツ石前遺跡（FUTATSUISHIMAE）:「ＡＦＭ」である。遺跡記号は、調査記録の便宜を図るため、遺跡名をアルファベット３文字で表したもので、１文字目の「A」は長野県内を９地区に分割した須坂市以北の地区を示し、２文字目･3 文字目は遺跡名のローマ字表記２文字を選択したものである。各種記録類や遺物の注記に遺跡記号を用いた。

（２）調査区（グリッド）の設定と呼称（第１、２図）

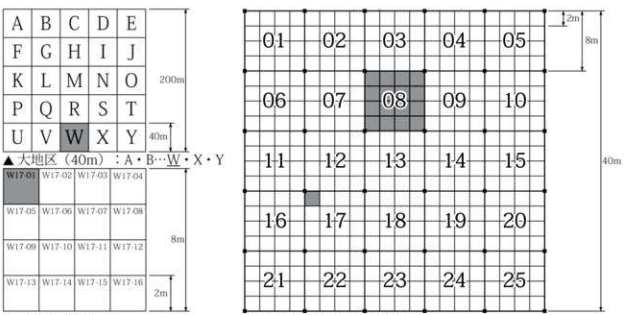
国土地理院の平面直角座標第Ⅷ系の原点（X = 0.0000、Y = 0.0000）を基点に、200 の倍数値を選んで測量基準線を設け、調査対象範囲全体をカバーするようにグリッドを設定した。

大々地区は、200 × 200 ｍの区画で、北西から南東へⅠ・Ⅱ・Ⅲ…のローマ数字で表記。

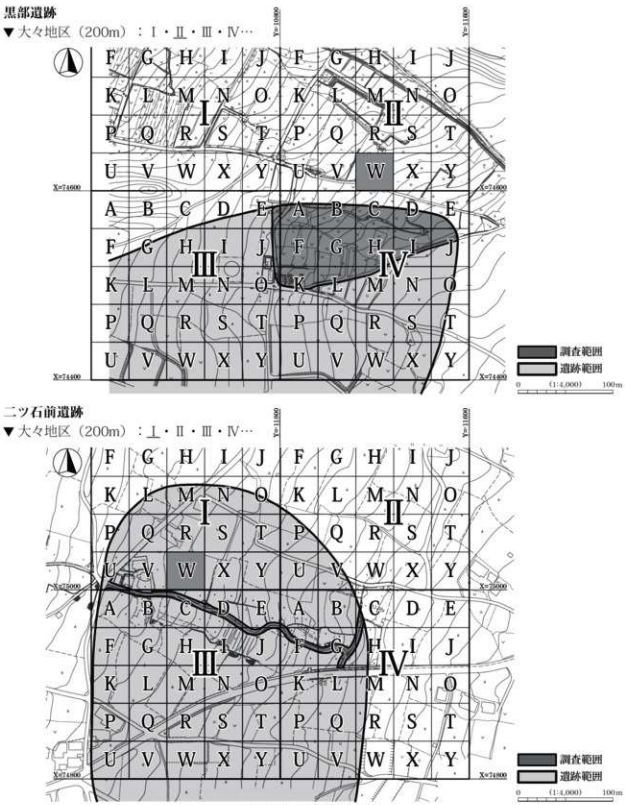
大地区は、大々地区を 40 × 40 ｍの 25 区画に分割し、北西から南東へＡ～Ｙまでのアルファベットで表記。

中地区は、大地区を 8 × 8m の 25 区画に分割し、北西から南東へ 01 ～ 25 のアラビア数字で表記。調査では、中地区を遺構測量等の基準、単位とした。

なお、座標値は、世界測地系である。



第１図　グリッドの呼称



第２図　基準線設定図

（３）遺跡の発掘

現地踏査後、重機による表土はぎを実施し、遺構検出を行った。測量は、調査研究員およびその指導のもとに発掘作業員が行った。調査中の写真撮影は６×７判カメラ、一眼レフデジタルカメラを併用した。

（４）遺跡の公開

両遺跡とも、発掘作業中に「発掘だより」を発行し、地元住民へ配布した。

２　日誌抄

発掘作業

【黒部遺跡】
平成 26 年度
３月 31 日　委託契約締結
３月 １ 日　地方事務所農整課との打合せ（調査について）
　　村教委との打合せ（現地確認）
４月 ８ 日　重機による作業開始。プレハブ、トイレ設置
４月 15 日　発掘作業開始式
４月 18 日　南側農道部で石鏃出土
５月 ２ 日　県教委視察。測量業務委託作業開始
５月 20 日　重機による埋戻し開始
５月 28 日　埋戻し終了。発掘作業員作業終了
５月 30 日　地方事務所農整課による発掘作業終了現地確認
　　村教委による発掘作業終了現地確認。発掘作業終了

【二ツ石前遺跡】
平成 28 年度
３月 25 日　委託契約締結
４月 ５ 日　地方事務所農整課、村教委との３者協議
　　（発掘作業の準備について）
４月 12 日　重機による作業開始
４月 15 日　発掘作業開始式。T03 から石器（削器）出土
４月 22 日　地方事務所農整課による現地視察
５月 ９ 日　重機によるトレンチ埋戻し開始（T01）
５月 31 日　トレンチ埋戻し終了
６月 ２ 日　地方事務所農整課、村教委、県教委との４者協議
　　（発掘作業終了について、現地確認、引渡し）
６月 ３ 日　発掘作業終了式
６月 ７ 日　プレハブ、トイレ撤去。発掘作業終了

第２節　整理等作業の経過

１　整理等作業の方法

（1）基礎整理作業

発掘作業年度に、記録類や出土遺物の基礎整理作業として、各種記録類の内容確認や点検、照合を行い、各種台帳および遺跡・遺構の調査所見を作成。写真類は、撮影内容等の点検、照合、台帳作成後アルバムに収納した。出土遺物は洗浄、注記を行い、種類別に仮収納した。

（2）本格整理作業

報告書作成に向けた本格整理作業を平成 28 年度に実施した。出土遺物は、分類、接合等を行い、器種や形態が把握できるものを報告書掲載遺物として選択抽出した。図面類は、基礎整理作業の編集図をもとに、必要に応じて２次原図を作成し、デジタルトレースにより図版を作成した。遺物図版も、トレース図をパソコンに取り込み版組を行った。

（3）報告書の作成および資料の収納

報告書の本格的な編集作業は、平成 28 年度後半から着手した。両遺跡ともトレンチ調査の内容を記述し、調査の概要としてまとめた。完成した報告書は、国および都道府県、県内外市町村の埋蔵文化財関連機関、大学、地域の資料館等に配布する。

出土遺物、実測図面、写真等の記録類は、報告書刊行後の移管に備え、分類収納した。

２　日誌抄

整理等作業

【黒部遺跡】
平成 26 年度
２月 ２ 日　基礎整理作業開始
２月 ５ 日　遺物洗浄
２月 ９ 日　各種台帳整理、作成開始
２月 10 日　遺物注記開始
２月 23 日　図面整理開始
３月 20 日　委託契約終了

【二ツ石前遺跡】
平成 28 年度
６月 ８ 日　基礎整理作業開始
６月 13 日　各種台帳整理、作成開始
６月 20 日　図面整理開始
12 月 １ 日　整理作業再開（黒部遺跡含む）
12 月 12 日　土層柱状図等デジタルトレース開始
１月 23 日　報告書印刷・製本業者決定
３月 22 日　報告書刊行
３月 23 日　遺物・図面・写真等収納開始
３月 24 日　委託契約終了

第３章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

黒部遺跡と二ツ石前遺跡は、長野盆地北部を見下ろす上高井郡高山村大字高井地籍に所在し、紫子萩山北側山麓の樋沢川左岸の扇状地上に立地する。樋沢川は長野・群馬県境の御飯岳と破風岳に挟まれた鞍部の毛無峠付近を源流とし北西に流下し、松川と合流したあと小布施町で千曲川に流れ込む。深く狭い渓谷の谷間を流れ下った樋沢川は、紫子萩山山麓の黒部地区付近から西方向に広い扇状地を形成するようになる。

黒部遺跡はこの紫子萩山山麓の樋沢川扇状地の扇頂部に広がる。二ツ石前遺跡は黒部遺跡の北西に位置し、北側に樋沢川と松川の合流地点があり、樋沢川扇状地の扇央部にあたる。両遺跡ともに、現況は果樹栽培等の畑作地帯になっている。

第２節　歴史的環境

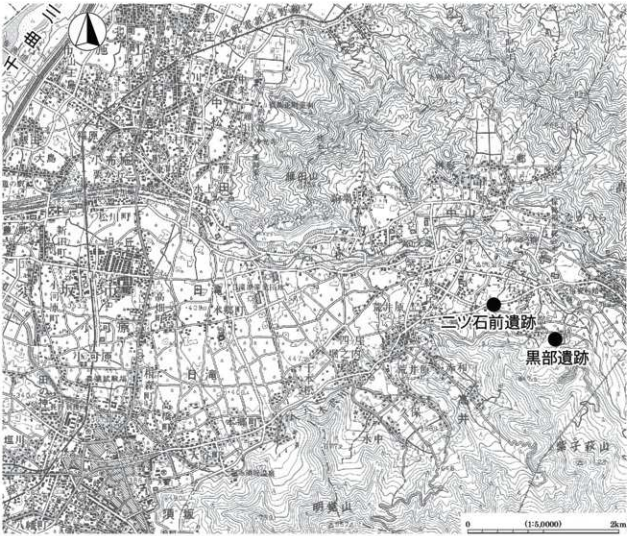
両遺跡の周辺では、樋沢川扇状地扇央部北側に二ツ石裏遺跡（4）、やや標高が下がった扇端部付近には紫遺跡（3）、北裏遺跡（7）が位置している。北東方向の松川河岸段丘上には北之久保遺跡（6）、やや離れて南西方向の樋沢川扇状地扇端部と八木沢川扇状地との複合する地点に荒井原遺跡（9）、八幡添遺跡（15）が周知されている。

過去の発掘調査例をみると、昭和58年、八幡添遺跡（15）で県営ほ場整備事業に伴い村教委により調査が行われ、縄文時代中期後半の竪穴建物跡13軒、炉跡３基、土坑３基、集石５基、中期前半の炉跡１基、古代の土坑１基が検出された。遺物は、主体となる縄文時代の加曾利E3～B1式土器のほか、弥生時代の箱清水式土器、土師器、須恵器、土師質土器、土偶、土製円板、さらにラウンドスクレイパー、石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、砥石、石皿、石棒、石製円板が出土し、旧石器時代～中・近世にまたがる複合遺跡と考えられる（村教委1984b、高井郷土史刊行会1994）。

昭和60年、北之久保遺跡（6）も八幡添遺跡と同様、県営ほ場整備事業に先立ち発掘調査が行われた。打製石斧や石皿、弥生時代の箱清水式土器、近世陶磁器等が出土し、縄文～弥生時代、中・近世の遺跡であることがわかった（村教委1986）。荒井原遺跡（9）は、戦前から旧石器、縄文時代の押型文～加曾利B式土器のほか、弥生時代の箱清水式土器、土師器、須恵器、さらに石鏃、石槍、石匙、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、石皿、石棒、石剣、環状石器等、多数の資料が採集されている。昭和33年、県道拡張工事の際には敷石住居跡と思われる遺構の一部も確認されたため、旧石器～平安時代にまたがる複合遺跡であると考えられる（村教委1984a）。八幡添遺跡と隣接しているため、遺構・遺物には共通点が多い。紫遺跡（3）は、尖頭器や黒曜石片、石鏃等が出土しており、旧石器～縄文時代にまたがる遺跡とされる（村教委1988）。二ツ石裏遺跡（4）は、石鏃や土師器、須恵器等が出土しており、縄文～平安時代にまたがる遺跡とされる。松川寄りに遺物がまとまって散布する地点がある（村教委1988）。

黒部遺跡（1）は、昭和32年、黒部区前原地籍小字吉田で開田作業中、直径50cm程、深さ60cm程の土坑数基が発見され、土坑中から平安時代の土師器や石器、木炭等が出土した。また古堂という地区の西側一帯で、特殊磨石、磨製石斧、内耳鍋等が発見されている。

昭和53年の遺跡詳細分布調査では、縄文時代の特殊磨石や石鏃等の石器類や縄文土器、弥生時代の箱

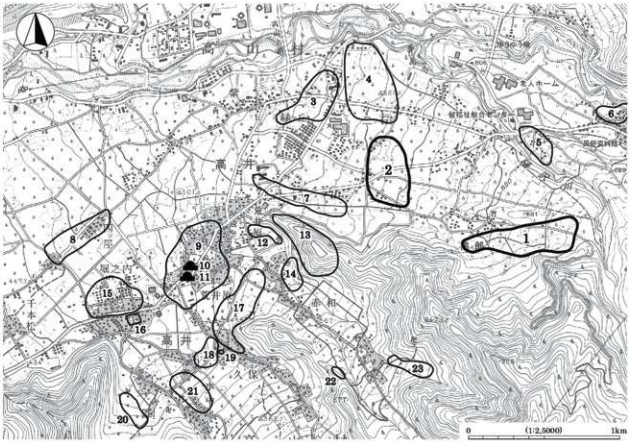


第３図　遺跡位置図

清水式土器が確認された。水源地付近で平安時代の土師器や須恵器が濃密に分布することが認められ、黒部遺跡は縄文時代から中世にいたる複合遺跡で、縄文時代早期と平安時代が中心となることが把握された（村教委 1984a、1988）。

昭和 62 年、高井地区県営ほ場整備事業に伴い、村教委が、裏原地区の高井 3826・3829・3830・3831 番地を中心とした範囲で発掘調査を実施した。調査では、縄文時代早期と考えられる竪穴建物跡１軒と土坑１基、平安時代と考えられる土坑２基が検出され、主体となる縄文時代早期の押型文土器のほか、早期の条痕文系土器、前期の黒浜式土器や平安時代の土師器甕・坏、および縄文時代の石鏃、小形剥片石器、スクレイパー、打製石斧、磨石、凹石、敲石、特殊磨石、スタンプ形石器等が出土した（村教委 1988）。それ以降、黒部遺跡での発掘調査はないため、今回が２回目の調査となる。

二ツ石前遺跡（2）は、昭和 53 年、高山村内での遺跡詳細分布調査により石鏃、黒曜石片、石棒等が採集されたため縄文時代の遺跡であるとされていたが、今まで発掘調査は行われたことがなく、今回が初めての調査となる（村教委 1984a、1988）。



第4図　遺跡分布図

第3表　遺跡地名表　　◎は遺構がある時期

番号	遺跡名	旧石器	縄文							弥生			古墳				奈良	平安	中・近世	備考（発掘年）
			草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	中期	後期	不明	前期	中期	後期	不明				
1	黒部			◎	○						○							◎	○	昭62
2	二ツ石前								○											
3	紫	○							○											
4	二ツ石裏								○									○		
5	福井原１								○											
6	北之久保					○					○								○	昭60
7	北裏					○														
8	四ツ屋					○														
9	荒井原	○		○	○	○	◎				○		○					○		
10	女塚古墳														◎					
11	あがた塚古墳														◎					
12	山際																	○		
13	城山城跡																		◎	
14	谷池								○											
15	八幡添	○				◎	○				○		◎		○			○	○	昭58
16	福島正則居館跡																		◎	
17	大宮北								○			○						○		
18	大宮南															○		○		
19	勝山健雄庭前窯跡																		◎	
20	水沢原																	○		
21	小布毛				○													◎		昭57
22	大日堂跡																		◎	
23	古赤和								○										○	

第４章　黒部遺跡

第１節　調査の概要

１　調査の概要（PL1、2）

調査対象地は遺跡の北東隅にあたり、標高は 675 ～ 688m を測る（第5、6図）。便宜的に調査区を南側農道拡幅部と北西農道新設部、ほ場整備対象地に分けて調査を進めた（第６図）。ほ場整備対象地ではトレンチ調査を行い、遺構の有無などを確認し、そのほかの部分はトレンチ調査を行ったうえ、必要に応じて面的調査を実施した。調査のため掘削した面積は、南側農道拡幅部が492㎡、北西農道新設部が197㎡である。ほ場整備対象地の調査面積は1,538㎡で、22 本のトレンチを設定した。ほ場整備対象地に対して、調査のため18.8％の面積を掘削したこととなる。調査対象面積は、合わせて9,049㎡である。

掘削前にまず、調査対象地内および周辺の踏査を行い、遺跡内における遺物分布状況の把握を行った。調査対象地では近世以降の陶磁器片が少量採集できたのみで、縄文時代や平安時代の遺物は出土しなかった。

（１）南側農道拡幅部の調査

現道下および拡幅部を、幅約 6m、長さ約 85m の範囲で面的に表土をはいで調査した。東側の杉林内は、目立った表採遺物もなく排土処理を考慮した結果、面的調査を行わないこととし、長さ・幅とも３～4m の範囲をトレンチ状に２箇所、掘削するにとどめた。

面的調査部分は、東から西に向かって下がる斜面地で、現道路盤直下が大形の礫を含んだ黄褐色土の地山となり、西端部の一部に旧表土やⅡ層黒色土の堆積が認められた。Ⅳ層黄褐色土上面を精査し、石鏃（第8図、PL2-5）１点と土器の小片がわずかに出土したが、遺構は検出されなかった。

東側の杉林内では現道路盤の下に旧表土や黒色土が厚く堆積する部分もあったため、黄褐色土上面まで人力で掘り下げたが遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。１Ｔの状況より、この厚く黒色土が堆積している部分は地形がやや谷状に窪んだ部分にあたると考えられる。

（２）北西農道新設部の調査

農道が新設される部分は、現況では南側が一段高くなっていて、大形の礫が地表面にも露出した林である。北側は一段低くなり畑地となっている。黄褐色土上面が遺構検出面であったが、現地形と同様に南側が高く、中央に段があり北側が低くなっていた。

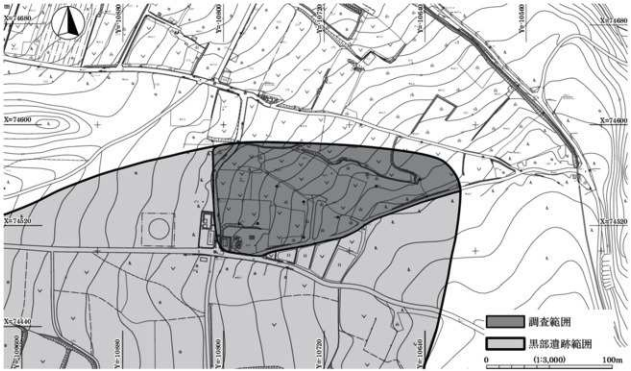
南側では現地表と同様に1m を超すような大形の礫を多く含む。一方北側では大形の礫の混入は少なく、耕作土下が黄褐色土となる。当時の地形は北西に向かって下がっていて、調査区北端部が最も低くなる。14 Ｔで認められる谷状の窪みが延びたものと考えられる。この調査範囲内では遺構が検出されず、遺物もなかった。

（３）ほ場整備対象地の調査

南側の一段高い面に１Ｔ～ 13 Ｔを設定した。ただし、13 Ｔは南側に一段低い面に連続する谷状の窪みが認められた。一方、北側の一段低い面に 14 Ｔ～ 22 Ｔを設定した。各トレンチでは遺構は検出されず、遺物は４・６・７・９・10・14 Ｔで土器片（土師器か）がわずかに出土している。

・南側（１Ｔ～ 13 Ｔ）

調査区中央部の石積みの段より南側で、北側より一段高い面となり北西方向に向かって傾斜する。トレ



第５図　黒部遺跡　遺跡範囲・調査範囲・地形図

ンチ調査の結果、扇状地の形状に沿うように北東から南西に向かって、やせ尾根状の高まりが延びることがわかった。２Ｔの南から３Ｔ～７Ｔ中央部へ,そして８Ｔ～10Ｔの北側に延びる高まりを尾根１とした(第７図)。尾根１は、現地表面にも大形の礫が露出し、畑の地境にも礫が集積された場所がある。調査区南側から徐々に高まっていき、頂部から北側は尾根２との間に浅い谷状の窪みが入る。

１Ｔの西端から２Ｔ～４Ｔ北端へ、概ね尾根１に並行する調査区中央部の畑境の石積みで切れる高まりを尾根２とした（第７図)。尾根１の北側の窪みからやや北側に向かって高まっているが、高さはなく、北側の段部で消えている。なお、北東隅の高位面よりやや低くなる部分に13Ｔを設定したところ、すぐに地山が露出し、１Ｔの東側から続く一段高い面の広がりであることも確認された。このように南側の一段高い面は、２本のやせ尾根状の高まりがあり、その間に浅く窪んだ谷状の地形が組み合わさった状況といえる。

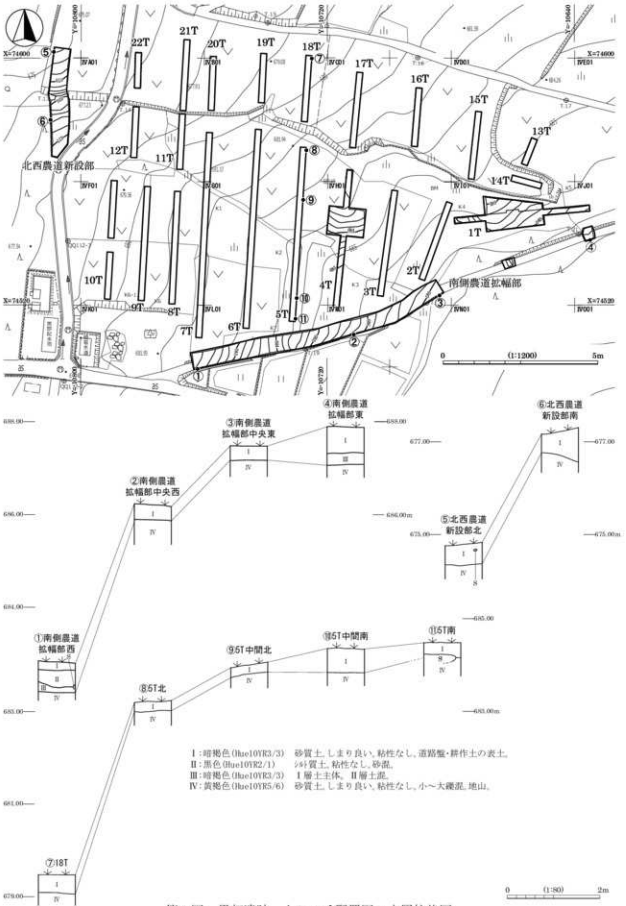
また尾根１の南側も、６Ｔ～10Ｔにかけてやや浅く窪んでおり、尾根北側と同様に谷状の地形になると想定した。トレンチ内での土層堆積状況を概観すると、尾根状の高まりでは現耕作土直下が直ぐに地山の黄褐色土となり、直径１ｍを超すような非常に大形の礫を含み一部は現地表面に露出している。尾根間のやや窪んだ谷状の地形となるところでは大形の礫の混入が少なく、現耕作土下に表土が堆積し、地山の黄褐色土となる。

・北側（14Ｔ～22Ｔ）

調査範囲中央部の石積みの段より北側の畑で、一段低い面となる。全体的に南東から北西に傾斜している。１Ｔの北側、13Ｔの西側の石積みから始まり、北西に広がる。南側の高い面との境は石積みが行われ、西に進むに従い段差は低くなっていく。

低い面が始まる14Ｔ部分では高低差約1ｍの石積みに囲まれた幅約10ｍの谷部となっている。ただし、１Ｔを北側に拡幅した部分の確認掘削で、浅い現耕作土直下が地山の黄褐色土となっていたことから、南東部から谷状の窪みはつながっておらず、14Ｔの東端あたりが谷状地形の始まりと思われる。

15Ｔ～22Ｔは、石積みの方向に直交するように設定した。その結果、石積みに近い部分に谷状の窪み



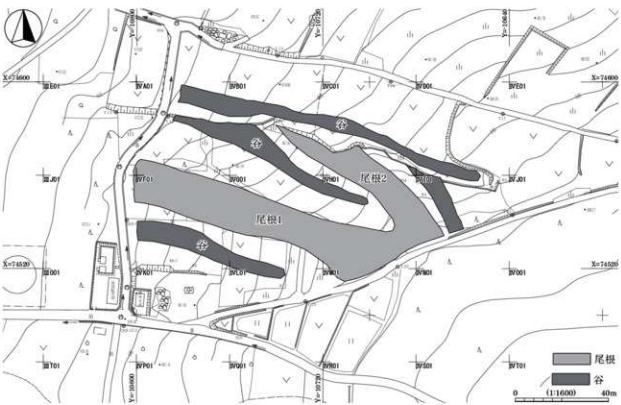
第６図　黒部遺跡　トレンチ配置図・土層柱状図

があり、14 Tから 16 Tまでは深さ約 1m と深い谷状の窪みとなり、黒色土が厚く堆積しているが、17 T より西側では急激に浅くなっていることが判明した。この窪みが北西農道部の低まりにつながっていくと考えられる。低い面ではこの谷状の窪みが確認されるのみで尾根状に高まる状況はない。

2　基本層序（第 6 図）

調査地の基本層序は、Ⅰ～Ⅳ層の 4 分層とした。

この土層の内、Ⅱ層、Ⅲ層は南側農道拡幅部の西端部で部分的に確認されたが、ほとんどの調査区ではⅠ層の表土下がⅣ層の黄褐色土（地山）となる。これは、本来堆積していたと思われるⅡ層黒色土が営農のための地形改変や耕作等により削平、かく乱されたことによるものと推測される。Ⅱ層は、土壌化（黒色化）が進み、検出段階で遺物が出土しており、本来的には遺物包含層として広がっていた可能性もあるが、今回の調査範囲ではほとんど存在していなかった。



第 7 図　黒部遺跡　地形概念図

第2節　遺　　物

南側農道拡幅部で、石鏃 1 点と土器片 5 点が、検出時に出土した。ほ場整備対象地では、4・6・7・9・10・14 Tで、土器片（土師器か）6 点が表採、掘削中に出土した。このほか、表採で 2 点の土器片を採取し、合せて 14 点の土器、石器が得られた。土器はいずれも小片である。

南側農道拡幅部出土の土器片（PL2-1 ～ 4）は、3 がLR 横縄文が施文され縄文土器の可能性があり、ほかは時期不明である。第 8 図は黒曜石製の石鏃で、先端が欠損している。長さ 1.3cm、幅 1.45cm、厚さ 0.3cm、重さ 0.43g である（PL2-5）。

第 8 図　黒部遺跡　遺物実測図

第５章　二ツ石前遺跡

第１節　調査の概要

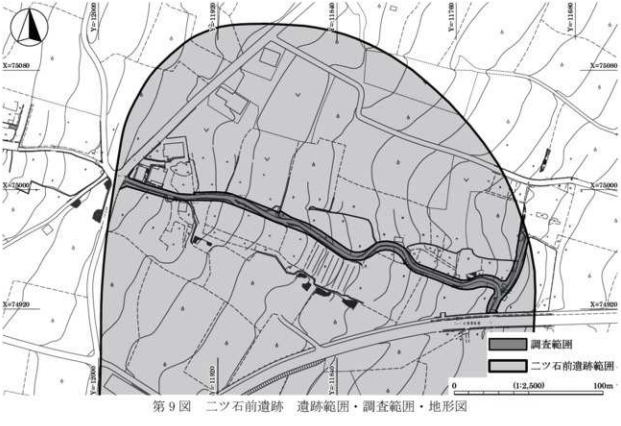
１　調査の概要（PL3、4）

調査対象地は遺跡のほぼ中央（やや北寄り）にあたり、標高は 577 ～ 598 ｍを測る（第9、10図）。東西に延びる市道（農道）の拡幅･新設部分に幅１ｍほどのトレンチを 12 本（T01 ～ 12）設定した（第 10 図）。調査対象面積は約 2,000㎡となる。T10 東側のみ面的に広げて遺構・遺物を確認したが、そのほかの箇所はトレンチ調査を行った。

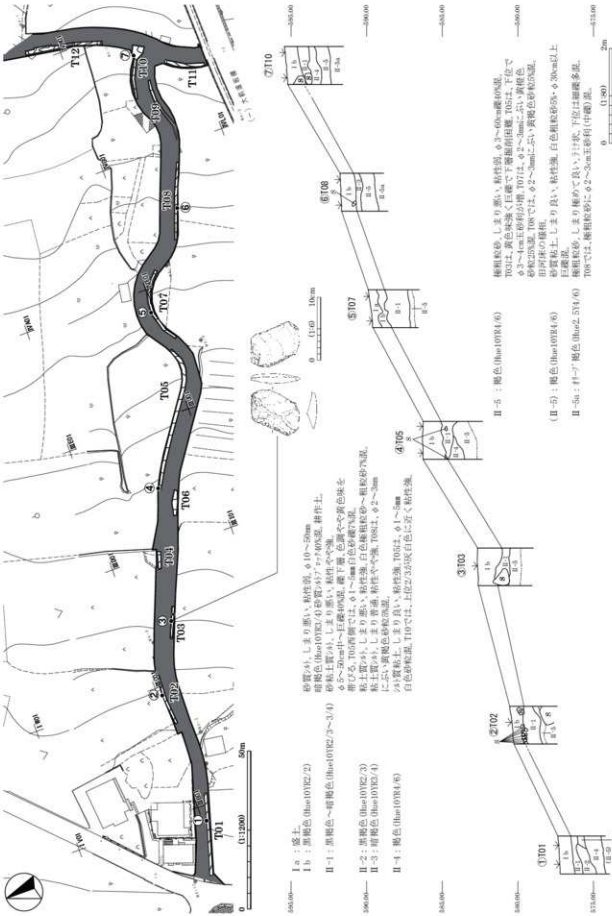
調査地は樋沢川の扇状地扇央部分となり、北東から南西に向かって緩く傾斜する地形となる。トレンチを設定した箇所は、現道の両側部分にあたり、道の境界には現代の石垣が積まれ、T04・05・08・09 以外は掘削面が現道より一段低くなっている。

調査は、遺跡西側の T03 から始め、基本的には西側から東側に向かってトレンチ調査を進めた。

トレンチ内の状況は、大半が現耕作土直下で大形の礫を含んだ暗褐～褐色シルトの地山層となり、一部浅い谷状に窪んだ部分では黒褐～暗褐色の地山層が厚く堆積している様子が観察された。現代の耕作による掘り込みは認められたが、遺構は検出されなかった。また、遺物は T03 中央やや東寄りのⅡ－１層上面より、熱性変質を受けた凝灰岩製の削器（第 11 図、PL4-1）が１点ではあるが出土した。以下、西側から順番にトレンチの概要を記述する。



第９図　二ツ石前遺跡　遺跡範囲・調査範囲・地形図



第 10 図　二ツ石前遺跡　トレンチ配置図・土層柱状図

・西側（T01 ～ 04）

T01 は地表下 30 ～ 50cm、T02 ～ 04 は地表下 20 ～ 50cm で、中～巨礫が混入する地山層となる。T04 から T03 方向に傾斜する扇状地形が形成されている。T01 西側で、漸移層的な黒褐色砂質シルト層に中～巨礫が多量に混入する層が堆積していた。浅い谷状の窪みが存在したとも考えられる。

削器（第 11 図、PL4-1）は、T03 の中央やや東寄りの地山層（Ⅱ-1）直上の礫に混じって出土している。

・中央（T05 ～ 08）

T05･08 は地表下 30 ～ 50cm、T06 は畑地耕作による掘削で表土層はほとんどなく地山層となる。T07 は、盛土層もあり表土層が最も深いところで地表下 1m となる。T07 東側に、漸移層的な自然の流路と考えられる溝状の落ち込みが南西側方向に傾斜する形で検出された。浅い谷状地形の一部と考えられる。T08 東側は、中～巨礫が 40% 以上混入する。

・東側（T09 ～ 12）

T09・10 は地表下 30 ～ 50cm、T11 は北側で 1m、南側で 50 ～ 60cm、T12 は 20 ～ 30cm で、中～巨礫を混入する地山層となる。T09 西側～中央にかけて、T07 と同様に地山層のⅡ-1 層が厚く堆積する。T10 西側は中～巨礫が 40% 以上混入し、他のトレンチと比較して巨礫が多い。また、礫の集中に偏りがあり層の堆積の凹凸が激しく、Ⅱ-4 層の堆積が顕著である。T11 は、とくにⅡ-4 層が厚く堆積する。T12 は、他のトレンチと比較して表土層が薄く、巨礫が部分的に集中する。

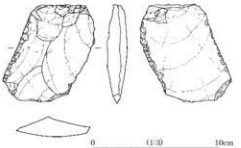
2　基本層序（第 10 図）

調査地の基本層序は、盛土・耕作土のⅠ層と地山のⅡ層とに大別、さらに細分した。

Ⅱ層のうち、黒褐～暗褐色土（Ⅱ-1 ～ 3 層）の堆積状況は地点によって異なるものの、一様に調査区内で観察され、遺物の出土はなかった。今回の調査範囲は扇状地の扇央部という立地の特性上、遺物包含層は形成されなかったと考えられる。

第２節　遺　　物

T03 中央やや東側、Ⅱ-1 層上面より、熱性変質を受けた凝灰岩製の削器（第 11 図、PL4-1）が 1 点出土した。長さ 7.8cm、幅 7.4cm、厚さ 1.6cm、重さ 78.08g である。左側のやや内湾した側面は、縁辺に対して横方向の使用痕がみられるが使用頻度は少ない。右側のやや湾曲した側面は、使用痕の方向は明確ではないが左側の側面よりも摩耗が進み、使用頻度が高かったと考えられる。時期は、ほかに出土遺物がなく明確ではないが、村教委による分布調査では石鏃、黒曜石片、石棒が採集されており、縄文時代の遺物と考える（村教委 1984a）。



第 11 図　二ツ石前遺跡　遺物実測図

第6章　総　　括

両遺跡とも、樋沢川扇状地に立地し、調査前の現状では比較的なだらかな傾斜の地形となっている。調査の結果、黒部遺跡は尾根状に高くなる部分と、それらに挟まれたやや窪んだ部分とが組み合わさった地形環境であることがわかった（第4章 第7図）。

二ツ石前遺跡についても、黒部遺跡ほど起伏の変化はみられないが、いくつかの沢状に窪んだ部分をもつ地形であることがみえてきた。これらは、扇状地形成に伴う河道変動の繰り返しの痕跡と考えられる。

調査地点は、黒部遺跡が樋沢川扇状地の扇頂部、二ツ石前遺跡は扇央部にあたる。一般に扇状地扇端部は扇状地下に浸透した地下水が湧き出るところで、水田や集落を営む場所に適しているが、扇央部は水が得にくいとされる。樋沢川扇状地の扇端部には柴遺跡、北裏遺跡が位置し、さらに南西側で八木沢川扇状地と複合する形で、遺構・遺物の密度が濃い八幡添遺跡や荒井原遺跡等が所在している。このように扇状地の特質が、周辺遺跡の様相にも反映していると考えられる。

調査地点は古代の人びとが集落を営むには適さない場所ではあったが、縄文時代や古代の土器や石器がわずかに出土した。このことは、当時の人びとが、一時的にこの地を訪れた痕跡の確認にはなろう。

今回の成果は、遺構がなく、遺物も希薄であったとはいえ、当地における扇状地利用のあり様を考えるうえで貴重な調査例であったと考えている。

引用・参考文献

高山村教育委員会 1984a『高山村遺跡詳細分布図』

高山村教育委員会 1984b『長野県上高井郡高山村四ツ屋遺跡群　八幡添遺跡』

高山村教育委員会 1986『長野県上高井郡高山村北ノ久保遺跡発掘調査報告書　北ノ久保遺跡』

高山村教育委員会 1988『長野県上高井郡高山村黒部遺跡発掘調査報告書　黒部遺跡』

高井郷土史刊行会 1994『写真が語る高井の歴史』ほうずき書籍

長野県埋蔵文化財センター 2015「黒部遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報』31

長野県埋蔵文化財センター 2017「二ツ石前遺跡」「長野県埋蔵文化財センター年報」33

写真図版

黒部遺跡遠景
（北西から）

黒部遺跡遠景
（南から）

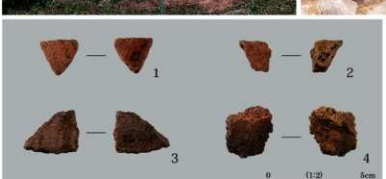
PL 2

左：トレンチ完掘全景
（北西から）
右：北西農道
（北から）

左：南側農道
（東から）
右：2 T
（南西から）

左：4 T
（南西から）
右：6 T
（南から）

左：8 T
（南西から）
右：15T
（北西から）



左：Ⅳ層上面
出土土器
右：Ⅳ層上面
出土石鏃

二ツ石前遺跡遠景
(東から)

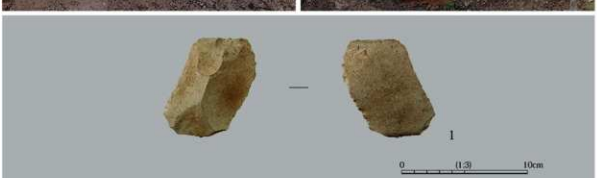
T12 北側礫集中
(南東から)

左：調査前遺跡全景
（西から）
右：T01
（南東から）

左：T03
（南西から）
右：T05
（西から）

左：T07
（南西から）
右：T07 断面中央最深部
（南西から）

左：T10
（東から）
右：T12
（南から）



T03
出土石器

報告書抄録

ふ り が な	くろべいせき　ふたついしまえいせき
書　　名	黒部遺跡　二ツ石前遺跡
副　書　名	県営中山間総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　信州高山地区
シ リ ー ズ 名	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	116
著 作 者 名	黒岩　隆　　福井優希
編 集 機 関	（一財）長野県文化振興事業団　長野県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒388-8007　長野県長野市篠ノ井布施高田 963~4　　℡026-293-5926
発 行 年 月 日	2017年3月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
くろべいせき 黒部遺跡	ながのけんかみたかい 長野県上高井 ぐんたかやまむらおおあざ 郡高山村大字 たかい 高井3930ほか	20543	40	36° 40′ 19″ （世界測地系）	138° 22′ 48″ （世界測地系）	20150408～ 20150530	9,049	県営中山間総合整備事業
ふたついしまえいせき 二ツ石前遺跡	ながのけんかみたかい 長野県上高井 ぐんたかやまむらおおあざ 郡高山村大字 たかい 高井4476ほか	20543	39	36° 40′ 32″ （世界測地系）	138° 22′ 02″ （世界測地系）	20160412～ 20160607	2,000	県営中山間総合整備事業

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒部遺跡	散布地	縄文、古代	なし	石鏃、縄文土器片、土師器片	
二ツ石前遺跡	散布地	縄文	なし	削器	

要　約	両遺跡とも、樋沢川扇状地に立地し、調査地点は黒部遺跡が樋沢川扇状地の扇頂部、二ツ石前遺跡は扇央部にあたる。調査の結果、扇状地形成時の河道変動による起伏がとらえられたが、扇頂部や扇央部は水が得にくい場所とされ、調査地点は古代の人々が集落を営むには適しない地であった。一方で、縄文時代や古代の土器や石器がわずかに出土したことは、当時の人びとが一時的にこの地を訪れた痕跡の確認にはなろう。 今回の成果は、遺構がなく、遺物も希薄であったとはいえ、当地における扇状地利用のあり様を考えるうえで貴重な調査例であったと考えている。

平成 29（2017）年 3 月 22 日　発行

長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　116

黒部遺跡　二ツ石前遺跡

県営中山間総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

信州高山地区

発行者　長野県長野地方事務所
（一財）長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒 388-8007　長野県長野市篠ノ井布施高田 963-4
Tel 026-293-5926　Fax 026-293-8157
E-Mail　info@naganomaibun.or.jp
印刷者　奥山印刷工業株式会社
〒 381-0022　長野県長野市大豆島 5959-1
TEL 026-221-3243　FAX 026-221-3244